

川越ロータリークラブ 会報 No.11



2024年9月17日 第3494回例会 会場：川越プリンスホテル5階

会員数：102名 免除出席者：2名 正会員出席者：54名 出席者：56名 早退：0名 出席率：54.90%

プログラム

点鐘（12：30）／ロータリーソング（第3例会：それこそロータリー・四つのテスト）／お客様・卓話講師紹介／奨学金授与／会長の時間／幹事報告／委員長報告／ニコニコボックス／出席報告／卓話／点鐘（13：30）〈司会：八木SAA〉

サビトラさんへの奨学金授与

奨学金ありがとうございます。ネパールに戻って家族や友人と再会し、リフレッシュしました。皆さまにお土産として「ダカトピー」という帽子を持ってきましたので皆さん被ってみてください。上の部分を織り込んで被ります。ネパールの伝統的な帽子で、公式なときに男性が被ります。女性の方への財布は大麻草から作られたものです。これからも皆さまのサポートに感謝しつつ、日本での生活を頑張ってまいります。「ナマステ」



会長の時間



2024-25年度 会長 西川 孝博

クラブ年次総会の日程は、クラブ細則の規定に基づき、第2週に行う、と理事会で決議しました。

さて、第1週にロータリーの友の田島地区代表に講義いただきましたが、私からも少し触れさせていただきます。日本でのロータリーの友は、昭和27年に2つに分かれたロータリーの情報共有をしようということで発行が決まり、翌年に第1号が創刊されました。名前の由来にはビールのおつまみでいう、お酒

の友からではないかという意見がでて爆笑がでたと本に書いてありました。正式には、遠藤健三氏という大阪の会員が名付け親なのですが、当時あった「月刊主婦の友」という雑誌の名前を文字って「ロータリーの友」という名前にしたと本人がおっしゃっています。

表ページは本来のページで、裏ページは日本独特なものです。表ページについては、年度の最初の7月号には必ずその年度の国際ロータリーの会長の写真を載せるよう決められています。ロータリーの友の表紙をよく見ると Rotary の文字の上に毛筆でロータリーの友の字が書いてあります。これは日本だけ特別で、事務局が国際ロータリーの許可を得て載せています。国際ロータリーからの指示は横書きのほうに載せ、各地区のロータリーの活動は縦書きの方に載っています。新たな条件として、ロゴマークについても表ページの右下に入るようになっています。

ロータリーの友にも電子化の流れが来ていますが、ロータリーの友を電子版にする場合は、各クラブの全員の賛同を得なければなりません。紙と電子どちらにも善し悪しがあり、我がクラブにおいてもどちらが良いかは今後も検討していく課題であると考えています。

幹事報告



2024-25年度 幹事 齊藤 智

- ・配布物：会報、
ハイライト米山294号
- ・北武蔵の文人・画人展案内

委員長報告

・青少年交換留学生帰国報告会（吉澤会員）

9/15（日）に3期分の学生が参加して開催。台湾に留学した工藤さんの帰国報告会がメイン。

五十幡ガバナーだけでなく、高丹パストガバナ一、坂口ガバナ一エレクトも参加されました。

・親睦委員会（関谷会員）9月のお祝い



誕生日：今泉（清）、伊藤、馬場（常）、片山、坂口、堀越、山田（禎）、中野（英）、塩野、山崎（共）、小林（勇）、鬼頭、山崎（大）
配偶者誕生日：長谷川、松山、鈴木（壮）、吉澤、栗原、須賀、山田（哲）、近藤
結婚記念：橋本、藤井、蓼沼、松山、塩野、上原、鈴木（崇）、高原、鬼頭、高木、細田



・次週卓話 担当（福本会員）

「株式相場と債券相場のトピックについて」

ニコニコボックス （鬼頭会員）

●一ノ瀬晶様、本日の卓話よろしくお願ひ致します。川越を舞台にした映画「リ、ライト」素晴らしかったです。＜会長、幹事＞●サビちゃん、川越 RC によろこそ、例会を楽しんで下さい。＜会長、幹事＞●一ノ瀬晶監督、本日の卓話宜しくお願ひ致します。＜町田＞●町田会員、一ノ瀬晶様、本日の卓話よろしくお願ひ致します。楽しみにしています。＜神谷、西澤、小杉、和田（尚）、五十嵐、鬼頭、山崎（大）、小橋、戸口、坂口、水村、小谷野、近藤、野溝、鈴木（壮）、住谷、島村、中野（文）、山田（哲）、久保田、山崎（共）、和田（喜）、馬場（常）、山田（和）、栗原、高原、馬場（弘）、石井、福本、廣瀬＞●サビちゃんよろこそ！例会楽しんで下さい。＜坂口、野溝、小高、山崎（共）＞●サビちゃんお帰りなさい。土産の帽子ありがとう。格好良いかぶり方教えて下さい！＜水村、馬場（常）、和田（尚）、栗原、高原、福本、石井、西澤、廣瀬＞●人と木の物語チャーリーに、皆さんお出でいただき有難うございました。無事終演をむかえる事ができました。＜岩堀＞●先日土曜日に、二人目と三人目の孫が産まれました。男の子と女の子の双子です。ジイジの脛が益々細くなりそうです。＜福岡＞●本日川越市内に引っ越し、念願の川越市民となりました。妻は帰宅時間が遅くなり、健康状態が悪化することを懸念しておりますので、ほぼ同期会の皆様、お手柔らかにお願い致します

す！！＜久保田＞●この度は結婚記念日のお祝いをいただきありがとうございました。美味しいお菓子を家族でいただきました。＜鈴木（崇）＞
合計63,000円

卓話

（町田会員）

○卓話講師：一ノ瀬 晶監督



川越を舞台とした「リ、ライト」という作品が私の処女作品になります。川越市にはショートフィルムフェスティバル大賞のほか、2022年に100周年記念事業の「もっと川越 PR 動画大賞」の審査員も務め、大変良いご縁をいただいています。

ネパールの帽子ひとつとっても、現地の人にとっては当たり前でも、外から見ると新たに発見するものがあります。映像は、見えるものしか書けない、見えないものは書けないのが小説と違うところです。映画監督には、一見すると流してしまう光景でも、光景に力があるところを切り取って、物語をつくるクセがあります。

坂道ひとつでも、いろいろなストーリーをつくることができます。大林監督の尾道三部作では、地元にとっては何でそこ？もっといい場所たくさんあるよ？となるが、何気ない階段が聖地になっている。お仕着せの観光は、1回みたらいいやとなるが、光景に力があるところは聖地になり得るのです。

川越は重層的で、一番街など趣のあるところがたくさんあります。曳っかわせもジャズのセッションに似ていると感じて「おわりはじまり」という作品を作りました。「リ、ライト」に続き、次回作で川越3部作になればと考えています。

川越は人もいい。おもしろいねと声をかけてくれ、イベントに参加し、いつの間にか手伝ってくれる。劇場公開のときも大変お世話になった。

川越は一言で言うと「Re」の街だと思う。もともとあったものに再び新たな価値を加えて未来につなげている。

川越の蔵の街は財産であり、一方で縛りにもなる。コエドテラスも新しくなり、夜の川越がコアになる可能性も感じます。ここからどう越えていくのか今後も川越と関係していこうと思いません。ありがとうございました。